

日本看護歴史学会 會報

日本看護歴史学会
第14号
1993年3月25日

遺された看護を尋ねる

——イーディス・キャベルの場合——

小玉香津子

看護史に名の残る人々の生涯には看護とは何かが必ず刻み込まれており、彼らの生涯を一人また一人とたどり重ねることによって看護の全容がよりよく見えてくる。もともと、見えてくるからと言って喜んでばかりはいられない。重苦しい側面を突き付けられて頭を抱えることもある。イーディス・キャベルの場合がそれである。

私が彼女を知ったのは十五年ほど前、セイマーの『看護史』をベルギーの項まで読み進めた時だった。第一次世界大戦さなかに連合軍側のスパイとみなされドイツ軍により射殺された、というたったの一行が何と衝撃的であったことか。しかし、数年後に高見安規子

氏「イーディス・キャベルの生涯」に教えられるまで事の子細はわからなかった。ベルギー最初の看護学校とその病院を託されていたイギリスの看護婦キャベルは、開戦と同時にスタッフともども赤十字に組み入れられ、戦時篤志看護婦養成と敵味方区別のない看護活動とに専念した。彼女は開戦時には休暇で帰国していたのだが、すぐにベルギーにもどったのだった。看護が自分の義務だったからである。やがて彼女は反ドイツの地下組織とつながり、自分の病院で回復したイギリス兵やフランス兵がオランダ経由で自由圏へと逃げるのを助け始める。帰国せよとのドイツの命令

にもかかわらず留って脱出援助を続け、ついには患者ではない兵士をも病院に囲まい脱出させるようになる。それは、交戦国の人々を援助するにあたり中立を守るというジュネーブ条約の一項に反する行為であった。周囲の危惧の高まりのうちに逮捕、軍事裁判、そして処刑。この間自分のしたことを一切否定せず、法的助言も求めず、ただ部下の看護婦達を気遣い、信仰を支えに毅然として二か月の独房に生き、自分は義務を果たさうとした看護婦であるにすぎない、と念を押して逝った。

おもよそのように知った折しも、看護理論家会議を見聞に出かけたカナダで私はキャベル山に出会う。カナダはロッキーマウンテンの山々の一つにチャーチルなどと並べて彼女の名をつけ、その行為を称えているのだった。いや、理論家会議はその場限りで忘れたがキャベル山は後を引き、調べてみれば彼女への敬虔なまなざしは世界的なものだった。その頃また、彼女はやはりスパイだった、それは違う、と看護誌に論争が現れたりもした。

しかし、私が彼女を尋ねるのは事の真相を知りたいからではない。看護婦として義務を果たさうとしたことがすなわち彼女の行為であったことの意味を問わずにはいられないからである。通念あるいは規定などを越えた高みに自らを置いて義務を果たす看護婦というものに思いを馳せるからである。

彼女における看護をつかまえた。それにはキャベルその人をもっと身近に感じることだ。

一昨、昨年と私は彼女の墓に参った。故郷ノーフォーク州のノリッジ大聖堂である。墓は一月はプリムラ四月はヒヤシンスで埋めつくされていた。大聖堂では毎年十月の命日に、『キリストにならいて』生きた彼女の名を冠した礼拝が行われるという。奇蹟を起こした聖人達に伍すイーディス・キャベルが、一歩街に出ると「捕虜を助けた愛国者」キャベルのイメージが色濃い。風景の交錯が看護婦キャベルを尋ねる私を迷わせる。

この年頭には彼女が訓練を受けたロンドン病院に行ってみた。往時はドックの労働者、今は移民があふれる市の東端に救貧院の面影を残してそびえるロンドン一の大病院。ここが義務に命をかけた看護婦の出発点であった気配が確かにある。そして、やはり彼女がいた。病院教会地下、開かれて間もないミュージアム兼資料館に。まるで語りかけてさえくれそうに。

第七回大会開催予告

期日

八月二十八日(土) 二十九日(日)

開催地

神戸市勤労会館

(JR三宮駅の近くです)

メインテーマ

「医制一二〇年 産婆制度を考える」

講演予定者

大林道子氏(女性問題研究者)

高橋みや子氏(千葉大看護学部)

その他の講師は交渉中

一八七四年(明治七)に東京・京都・大阪に医制が発布されてから、来年で一二〇年となります。医制の中に産婆に関する条項があり、その資格や職務を定めています(看護婦の規定はみられない)。そこで今回は、産婆制度についてとりあげることにしました。

今年初めて神戸市で開催します。皆さまの年間予定の中にぜひこの大会を加えて下さり、多数の方が参加されますようお願いしています。二日目の昼食時間には、サンドイッチパーティを予定しております。一言つけ加えますと、港町神戸の夜を親しい方々と共に楽しむこともできます。

研究報告演題募集

第七回大会での研究報告を募集します。毎年、応募者が少ない状態ですので、今年は今から準備されて、多くの方が応募して下さいることを期待します。

応募要項

- 1 研究報告のテーマ
- 2 要旨(研究目的、史料収集の方法、結果及び結論等の概要を、原稿用紙二、三枚にまとめたもの) 縦書き
- 3 締切り 六月末日

分科会話題提供者募集

- 1 内容 研究テーマ
要旨・呼びかけ(百字内)
- 2 締切り 六月末日

大会の詳細、研究報告と分科会話題提供の申込方法については、会報の次号でお知らせします。

参考メモ①

- 一八七四(明七) 医制
- 一八九九(明三二) 産婆規制
- 一九四二(昭一七) 国民医療法
- 一九四七(昭二二) 助産婦規則
- 一九四八(昭二三) 保健婦助産

婦看護婦法

一九九二年度幹事選挙 投票結果報告

投票率二二・七%

投票期間一九九二年十月一日から一九九三年一月一日で、第三期幹事選挙が行われました。

投票者五二名、うち七名連記者一名で、総得票数五一七票、無効票なし、投票率二二・七%でした。各会員の得票数は左記の通りです(氏名一敬称略、得票数)。

- 亀山美知子 四七票、山本捷子 三八票、吉川龍子 三四票、ライダー島崎玲子 三三票、藤村龍子 三二票、高橋みや子 二九票、依田和美 二二票、鶴沢陽子 二一票、氏家幸子 一九票、五十嵐節 一八票、山崎雅代 一七票、小玉香津子 一六票、渡部尚子 一六票、武藤美知 一三票、青木うめ子 一一票。以上が十五位までですが、以下は票数ごとによりまとめて報告致します。

- 一〇票一高田節子、九票一草刈淳子、福本恵、六票一小平政子、岡山寧子、玄田公子、高嶋妙子、都築公、四票一遠藤恵美子、川口孝泰、川島みどり、花島眞子、三票一岡崎寿美子、加藤光宝、木村秀昭、坂本玄子、菅原スミ、鈴木美恵子、

中込仁、二票一上岡澄子、浦野シマ、神永恂子、小南吉彦、佐山光子、須藤知子、祖父江育子、田中幸子、泊祐子、渊井喜美恵、古崎すみえ、山田重子、吉崎弘之、一票一伊藤幸子、上野ミユキ、宇佐美千恵子、江崎フサ子、大蔵多恵子、大島絃子、大村春子、片岡千雅子、門脇ツヤ子、金井悦子、上條美昭、岸本多恵子、小山千加代、坂下貞子、佐藤サツ子、白川康一、瀬戸口要子、瀬戸文代、高岡スミ子、高橋典子、田中多津子、多原佐藤民子アンジェラ、内藤寿喜子、中村明美、花岡真佐子、宮里和子、武藤勝治、村山惟子、山田要子、吉田弘子。以上の通りでした。

なお、二月末日までに上位の各氏宛に、幹事就任の可否を問合せます。上位十名が決定しました上で、次号に第三期幹事(任期三年一九九三年度〜一九九五年度)として発表致します。

選挙管理委員

- 鶴沢陽子
- 花島眞子
- 滝沢道子



関東大震災から七〇年

一九二三年（大正一二）九月一日午前一時五八分、突如として関東地方南部を襲った関東大震災（マグニチュード七・九）は、首都圏の機能を麻痺させたほどの甚大な被害をもたらした。殊に東京と横浜では、大地震後に発生した火災による被害が大きく、死者と行方不明者一三万人余、負傷者一〇万人余にのぼった（『関東大地震調査報告書』）。

この中で救護にあたるべき医療機関までが被災し、医療従事者自身も犠牲者となった。病院の看護婦全員が患者と共に殉職した例もあったことが、新聞に報じられている。派出看護婦会から患者宅へ

派遣されていた看護婦も、二〇〇人以上が殉職し、東京府看護婦会連合組合では合同追悼式を行っている。

地震後直ちに始まった災害救護の中で、看護婦の活動はめざましかった。一人の患者を背負い、両手で担架をかついで、同時に二人分の働きをした者、不自由な体の患者を運ぶのに担架が間に合わず、布団にのせたまま引いて避難し、火災から救った者、自宅に子どもを残したまま数日間も帰らずに救護に従事した者、地震の翌日に救護班員として上京以来、上野公園のテント内での救護と巡回診療を続け、「上野の女神」と患者からよばれた人たちなど、当時の新聞には看護婦の活動ぶりがしばしば紹介されている。

日本看護歴史学会第6回大会 収支決算報告書		(単位 円)
<収入>		
大会参加費 (3000×59名)	177,000	
サンドイッチパーティ代金 (1000×32名)	32,000	
大会総会費	50,000	
合計	259,000	
<支出>		
講師謝金・お車代	50,000	
サンドイッチパーティ代	34,928	
幹事・世話人昼食代	12,050	
学生アルバイト代	18,000	
事務・通信・雑費	8,305	
合計	123,283	
<差し引き残高>		
259,000 - 123,283 = 135,717円		
<累積残高>		
前年度までの繰り越し金	206,303	
本年度残高	135,717	
累積残高	342,020	
(次年度大会費用へ繰り越し)		

この災害救護には、外国看護婦の来援があったことも忘れてはならない。中国紅十字会からは、いち早く女医と看護婦を含む救護班が派遣され、救護活動を行った。アメリカでは当時排日運動がひろがっていたにも拘わらず、国内で直ちに義援金募集が開始され、多量の救護物資が日本に送られてきた。アメリカ赤十字社では看護婦二〇余人を含む三〇〇人の救護班を派遣し、東京・横浜に設けた臨時病院で救護活動を実施した。また当時アメリカの統治下であったフィリピンからも、四〇余人の米比看護婦を含む六〇〇人余の救護班が来援している。

外国救護班の帰国に際しては、東洋婦人会や日本赤十字社篤志看護婦人会が慰労会を催して、感謝の意を表した。

なお関東大震災を機に、済生会はその年の暮から巡回看護事業を開始したが、これが日本における本格的な保健婦事業の始まりとされている。またアメリカから寄せられた義援金をもとに、同愛記念病院が設立されたのも、大震災に関連するできごとであった。

現在では国内だけでなく、外国の大災害の救護にまで災害看護の活動は拡大している。(吉川)

近代以降主要災害

- 一八九一（明二四）濃尾大地震
- 一八九六（明二九）三陸津波
- 一九一四（大三）桜島大噴火
- 一九二二（大一一）関東大震災
- 一九三三（昭四）関西風水害
- 一九三三（昭四）東海南海地震
- 一九四四（昭一九）南海道大地震
- 一九四六（昭二一）福井地震
- 一九四八（昭二三）伊勢湾台風
- 一九五九（昭三四）新潟地震
- 一九六四（昭三九）宮城県沖地震
- 一九七八（昭五三）雲仙岳噴火
- 一九九一（平三）



関東大震災の救護活動（日赤病院内）

事務局だより

◆ 新入会員

南出成子 520 大津市比叡平三15

岸根滋子 601 11京都市左京区鞍馬

大井文博 183 東京都府中市片町一

本町四〇

床田弘子 574 大阪府大東市扇町一

132

吉田弘子 (病氣療養のため)

中条桂子

◆ 退会者

山根節子 110 七二二12415

136 (内二11) 看護学

史、看護学の諸問題 (名簿追

加事項)

松尾光恵 840 佐賀市水ヶ丘111

311 〇 県立総合衛生学院

(自宅) 835 〇1福岡県三池郡高

田町舞鶴八八二 (名簿記載も

れ)

滝沢道子 260 千葉市中央区亥鼻三

161 333 110 〇四三122

四一九八七二 (転居)

○住所変更の場合は、事務局あてに必ずご一報下さるよう、お願いいたします。

「看護婦百年のあゆみ」

記念アルバム (一九八八)

去る一九八八年に全国六カ所で開催された本会主催の「看護婦百年のあゆみ写真展」の記念アルバムの残部があります (頒価七〇〇円)。教材としても使用価値があります。お問い合わせは事務局までハガキで。

学会誌第七号の原稿募集

学会誌の充実をはかるため、日頃の研究成果をご投稿下さい。(年一回発行)

会費未納の方々は、至急、下記の郵便口座へご送金下さい。
1992年度年会費 4,000円
京都 1-52185
日本看護歴史学会

参考メモ②

一三〇年前ごろのできごと

- 一八七二年 (明治五) (旧暦) 2月 文部省に医務課設置 (翌年3月、医務局となる)
- 8月 学制発布
- 9月 新橋・横浜間鉄道開業
- 11月 京都療病院開院
- 11月 太陽暦採用の布告
- 一八七三年 (明治六) 2月 順天堂医院開院、杉本かねが婦長となる
- 2月 キリスト教を黙認
- 2月 大阪府病院開院
- 11月 慶応義塾に医学所設立
- 11月 内務省を新設
- 一八七四年 (明治七) 1月 板垣退助ら民権議院設立 白書を提出
- 5月 大阪・神戸間鉄道開業
- 5月 第一大学区医学校を東京医学校と改称
- 7月 東京府病院開院
- 8月 文部省、医制を布達
- 一八七五年 (明治八) 5月 ロシアと千島樺太交換条約
- 6月 文部省医務局を内務省に移管 (翌年、衛生局と改称)
- 6月 新聞紙条例制定
- 8月 福沢諭吉『文明論の概略』
- 11月 同志社英学校設立
- 11月 東京に女子師範学校開校

欧米看護学古書店

- ・F. ナイティンゲール関係の古書・自筆書簡等のカタログをお送りします。
- ・お探しの欧米看護学古書をお問い合わせ下さい。

大井書店 〒183 東京都府中市片町1-10-6-505
TEL 0423-60-3154
FAX 0423-60-6443

日本看護歴史学会

会報第十四号

編集・発行責任者

〒150 東京都渋谷区広尾

4-1-13

日本赤十字看護大学

小玉香津子

吉川 龍子

山本 捷子

日本看護歴史学会事務局

〒615 京都市右京区西院月双町11

マンハイム五条三〇九

亀山 美知子 方